REPORT●中三川大地（Daichi Nakamigawa）　PHOTO●TWS

多彩なコーディネートを可能とする

渾身の3作目に宿るTWSの〝幅の広さ〟。

5本目の柱としてReizend（ライツェント）シリーズが加わったのは2年ほど前だった。世界に誇れる国産鍛造技術を駆使した銘柄がずらりと並んでいたTWSにおいて、ライツェントの個性は“自在なコーディネート”である。マッチングやカラーリングなど子細な指定を可能とするパーソナライズメニューは、世界各国あらゆる車種や、カスタムカーに対してもぴしゃりと一致させる包容力を持つ。

WS10、WX07という2種類で発進したライツェントシリーズに、2016年になって3作目が加わった。その名もWS05。一切の無駄を削ぎ落としたかのような5本のツインスポークが見る者を釘付けにし、車種を選ばず似合いそうな雰囲気も宿る。

なによりも昨今レクサスが推し進める、スピンドルグリルを中心としたアグレッシブな姿形を支えるのには特に相応しい存在だと思える。基本として用意されるレギュラースペックからして、PCD114.3の19～20インチという設定を持ち、この時点でも最新レクサス勢を見据えている。

そしてパーソナライズメニューを視野に入れると、コーディネートの可能性は無限大というほど拡がる。なにしろ27パターンものペイントメニューを始めとして、そのうえでブラックカットフィニッシュやペイントアルマイトなど仕上げにも選択肢があり、さらにスペシャルカラーとしてミラーポリッシュ、サンディングミラーポリッシュも用意される。それに加えてセンターキャップも11色×2フィニッシュを展開する。ユーザーは、ボディカラーや好みに合わせて選ぶことができるわけで、優柔不断の人からは嬉しい悲鳴があがりそうだ。

さらにパーソナライズメニューであれば、スタンダードやコンケーブディスクに加えて、さらに深みのあるディープコンケーブも用意されている。つまり、足まわりやブレーキなどの機能系チューニングを筆頭に、尖ったチューニングカーであっても受け入れる体制が整っているというわけだ。

もちろん性能は折り紙付き。国内最高峰の鍛造技術をフル投入して仕上げられるこの2ピースモデルは、レクサス如何に関わらず加速度的に高出力化＆高重量化が進む昨今の新型車を受け止め、タイヤを含めたクルマの性能を最大限に引き出してくれる。ただ履ける履けないに留まらない、高性能こそがTWSの真骨頂である。

一例としてRCFに装着されるのはフロント9.0J、リヤ10.0Jの20インチ。WS05×RCFの定番サイズだ。鍛造らしい質感を持つバレルクリアⅡが鮮やかなボディ色と調和する。

TWS Reizend WS05

TWS Reizendの第3弾として生まれたWS05。パーソナライズメニューを含めると合計で51種のカラーに3つのフェイス、23種のセンターキャップカラーから選ぶことができる。

パーソナライズメニューではディープコンケーブを選べる。72㎜ものセンターの落とし込みと66㎜のスポークエンドハイトを持つ。19、20インチともに8.5J以上で用意されるメニューだ。

PRICE LIST

19インチ	10万7000円～
20インチ	12万4000円～

※価格は税別。

問い合わせ／TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY　☎0766-86-0117　http://www.tws-forged.com